

令和4年度 学校経営報告

府中市立府中第三小学校長 関 修一

1. 令和4年度 学校経営の成果と課題

① 感染症拡大防止の取組

昨年度に引き続き、感染症対策を行いながらの学校運営であった。今年度は、運動会や学習発表会など学校行事もできる限り実施するように進めてきた。各行事とも保護者の参観数を制限して感染対策と学校行事の両立を進めることができた。来年度以降対策レベルが下がるので、状況に応じて学校運営を進めていく。

② 学びの保障

年間を通して、感染症でお休みをする児童がいたので、必要に応じて、授業の様子を動画配信するなどリモート学習を進めることができた。また、タブレット端末内の電子ドリルを有効に活用して、それぞれの児童にあった個別最適化されて学びも進めることができたのは大きな成果と考える。

③ 府中市 GIGA スクール構想の実現

授業場面におけるタブレット端末の効果的な活用を進めてきた。ICT 推進プロジェクト部を中心に、教師には授業場面での ICT 活用の推進・児童には家庭でのタブレットを使った学習を進めてきた。授業場面で ICT 機器を使うことは、日常的になってきている。今年度は、児童同士の考えを共有したり、児童の振り返りを記入したりと児童の考えを深める取組を進めてきた。家庭学習でのタブレット活用も定着しており、e ライブラリの取組を進めることができた。教師も児童もタブレット端末の活用に慣れてきているが、文字入力に時間がかかってしまうことが大きな課題として明らかになってきた。

④ 学校経営支援予算

特別に支援を必要とする児童や対応することで、落ち着いて授業を進めることができた。本校の特色としては、新1年生の入門期である5月中旬まで各教室に1名の支援員を配置し、小学校生活に慣れさせるようにしている。この取組を行うことで学校生活に早めになれることができる。

⑤ 副校長等校務改善支援事業の活用

副校長等支援事業は、人材にも恵まれ、非常に有効に活用することができた。今年度、効率的に運営できているため副校長の本来業務である学校経営上の課題や教員の育成に時間をかけることができ、若手の教員が実力をつけることができた。

⑥ 不登校対応

今年度は、不登校対応として「やすらぎルーム」を開設した。長期不登校の児童の

居場所として学校支援員が学習や話し相手として対応している。学校に登校できる児童も出てきており、一定の成果を上げている。

⑥ 教員の働き方改革に関する取組

タイムレコーダーを活用することで、教員自身が自分の在校時間を意識するようになり、メリハリをつけた勤務ができるようになりつつある。OJT 研修の中で、学級事務の効率化についても学べるようにしていきたいと考えている。

2. 令和4年度の取り組みと具体的な方策

(1) 学力向上

①算数科を校内研究に位置付け授業改善に取り組む(継続)

令和2年度から完全実施の指導要領の趣旨を理解するため、来年度も、問題解決学習を中心に算数科を研教科として、「見方・考え方を通して、資質・能力を育成する」の授業レベルにおける実現を図っていく。来年度は、各学年1回ずつ合計6回の授業研究を行い、日常の授業の質を高めていく。

②ICT 機器を活用した授業の充実

一人一台のタブレットを活用して、反復学習やそれぞれの時間の振り返りをおこなったり、問題解決的な学習において共同的で探究的な活動を進めたりして、児童一人一人に合った学習のスタイルを明らかにしていく。同時に、児童の ICT スキルを高めていく。

(2) 人材育成

①若手教員の指導力向上

学年会で指導について足並みをそろえるとともに、基本的な授業の流れや一単位時間の目標を明確にするなど授業力を高める取り組みを進める。企画調整会議と同時に OJT 研修会を実施し、ベテラン教員のスキルを伝えていくようにする。

②主任教諭の育成

ミドルリーダーとなる主任教諭の育成を計画的に進める。

校務分掌の中で、学年主任や各所委員会・部会の主任に配置し、その分掌の運営責任者として分掌組織の進行管理や運営力を育成する。

(3) 小中連携

管理職・小中連携コーディネーターを中心に小中連携を推進する。授業参観を基本とし、各学期の連携授業の前後に小中連携連絡会を開催し、行動連携からカリキュラム連携に広げていけるようにする。

(4) ライフ・ワークバランスの取組

教職員の在校時間の把握や意識化はできてきている。校務分掌を見直し、職員がライフ・ワークバランスの保たれた生活が送れるように改善していく。